

生活単元学習指導案【改訂】

指導者 T1高 阪 英 徳 T2伊 藤 友 里

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第1校時(9:00~9:45)
- 2 年 組 小学校特別支援学級 低学年(1年生3名, 2年生3名)
- 3 場 所 合同教室
- 4 単 元 クラス発表会ーぺんぎんきょうだいのげきをしようー
- 5 単元について

本学級の児童は、1年生3名(男子2名, 女子1名), 2年生3名(男子1名, 女子2名)の計6名で構成されている。クラス発表会は、低, 中, 高学年の各クラスが劇の発表を行う。本番当日は、保護者や学校の友だちの前で発表し、これまでの練習の成果を発揮できる場となっている。毎年12月に劇の発表となり、6年生にとっては6回目が最後の劇になる。児童は、1年1年の劇を思い出しながら、学年が上がるにつれて、表現力を深めたり、広げたりして、劇の内容を発展的に取り組んでいる様子を捉えることができる。どんな劇をするのか楽しみにする様子やお客さんの反応に期待する様子など、学年が上がるにつれて、劇に取り組む気持ちが意欲として表れることが、毎年取り組む意味として、重要なことであると考えている。低学年段階においては、まずはステージの上に立つことが大切である。人前に立って劇をすることで、がんばった自分や楽しかった自分を実感してほしい。本年度の児童の実態としては、人前に立つことに対して、劇の発表を通して張り切って演じることができる児童、見られていることを気にしない児童、恥ずかしくて声や動きが小さくなる児童がいる。このような児童の実態の中で、劇を終えたときに、「褒められてうれしかった」や「がんばってよかった」や「劇が楽しかった」と思うことができるように取り組んで行くことが重要となる。

このような児童の実態を踏まえて本単元では、「ぺんぎんきょうだい」の絵本を取り上げて、劇に取り組む。この「ぺんぎんきょうだい」の絵本は、「ばすのたび」「ふねのたび」「そらのたび」「れっしゃのたび」がある。今回は「れっしゃのたび」を取り上げる絵本の内容として、荷物を準備、買い物、列車に乗るなどが扱われるが、10月の校外の宿泊学習で活動したと類似している。このことが児童の具体的なイメージにつながり、劇に取り組むことができると考えた。低学年段階で劇の注目のポイントは「かわいさ」である。一つ一つの活動をペンギンで演じることで、「かわいい自分」を意識して、楽しく劇に取り組めるようにしたい。

指導にあたっては、劇の最初から最後までの流れを、ペープサートで可視化して具体的なイメージをもつことができるようにする。ペープサートでもつイメージを劇と一致させることで、劇の内容や自分の役のセリフ、動きがわかるようにする。児童が「かわいい」「上手」と言われるような褒められる場面を設定し、自分がやることに対して自信がもてるよう取り組むようにしたい。

6 単元の目標

- (1) 絵本の内容の荷物の準備、買い物などのセリフや動作がわかる。 **【知識・理解】**
- (2) 友だちの動きや効果音を聞いて、自分の出どころでセリフを言ったり、行動したりすることができる。 **【思考・判断・表現】**
- (3) 他者に見てもらっていることに喜びを感じ、楽しく劇を演じようとしている。 **【学びに向かう力・人間性】**

7 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

具体的な児童の姿
○ 劇の練習に取り組む中で、自分の演じる役がわかり、楽しくかわいく演じることができる。また、劇の内容や見通しをもち、張り切ってセリフを言うことができる。
○ 「ぺんぎんきょうだい れっしゃのたび」の劇の発表を通して、楽しかったことやがんばったことを実感することができる。
手立て【関連する教師の資質能力】
○ 児童のこれまでの経験や学習してきたことを関連づけて、劇の内容の展開をする。 【授業実践力・生活と結びつきのある指導内容の設定】
○ 個別の実態に応じて目標を設定し、その達成状況を継続的に見取ることで、その変容を捉える。 【授業分析・評価力：学習内容や目標の適切さについての学習評価】

8 指導計画 全20時間

次	時	学習内容
1	1～14	劇の練習(本時 5/20)
2	15～16	リハーサル
3	17～19	クラス発表会(オープニング・養低の劇・養中の劇・養高の劇)
4	20	ふりかえり時間

9 本時の目標

劇の展開や場面ごとの内容がわかり、自分の出番で場面に適したセリフを言うことができる。

10 個別の目標

児童	実 態	目 標 行 動
①	<ul style="list-style-type: none"> 人前で張り切って発言したり、行動したりすることができる。 発語が不明瞭なところがあるが、ジェスチャー等で、言いたいことを伝えようとするすることができる。 自分の言葉をジェスチャーで楽しそうに表現しようとするすることができる。 	○ジェスチャーを交えて、自分のセリフをゆっくり言うことができる
②	<ul style="list-style-type: none"> 人前で発表しても、見られていることを気にしない。 聴覚過敏があり、好きな音と苦手な音がある。 聞き手を意識することが難しいが、人前で話すことはできる。声の大きさ等はあまり変えることができず、一定の音量で話すことができる。 	○友だちの動きを見て自分のやることがわかり、セリフを言うことができる
③	<ul style="list-style-type: none"> 人前に立つと恥ずかしくて声や動きが小さくなる。 自分から話しかけたり、質問されると、答えることができる。自分にとって不都合な場合や恥ずかしい場合に、話ができなくなることがある。 絵本の内容や展開は理解できる。3匹の子ブタなど、絵本の劇化すると、その場면을想像しながら、セリフを言うことができる。 	○お話の展開がわかり、友だちの動きを見て、セリフを言うことができる
④	<ul style="list-style-type: none"> 人前で張り切って発言したり、行動したりすることができる。 普段は誰とでも、会話をすることができる。人前であっても、堂々と話することができる。 注目を浴びていることに喜びを感じている。 	○お話の展開がわかり、セリフを言うことができる
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 人前に立つと恥ずかしくて声や動きが小さくなる。 流暢に会話ができる場所が、家である。場や状況が変わると、発語が少なくなる。教室内では、会話ができる人や場所が広がってきているが、場の設定によっては、言葉がでないことがある。繰り返し練習すれば、言葉が出る場合がある。 	○マイクの前に立ち、自分のセリフを言うことができる
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 人前に立つと恥ずかしくて声や動きが小さくなる。 自分の思いを伝えるときに、ジェスチャーで伝えることができる。日常の会話では、しっかりした口調で、伝えることができることがある。 	○日常生活の中で出しているような声量で、セリフを言えることができる

11 座席表

黒 板

児②
児⑥
児①
児⑤
児③
児④

12 学習の展開

学習活動と内容	目標行動 (○) および支援 (・)					
	①	②	③	④	⑤	⑥
1 始めのあいさつをする	・学習を始めるためのあいさつを、児童に促す					
2 れっしゃのたびをペープサートで見る	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを確認することで、本時の活動のイメージをもつことができるようにする ・ペープサートを使って劇の展開を示すことで、自分の役や出どころのイメージをもつことができるようにする (T1) ・ペープサートで劇をする場面で、児童がセリフを言ったり動作をしたりした場合、そのままの流れを進める。 ・必要に応じて、セリフを言ったり、動作をしたりするよう促す (T2) ・前時の動画をもとに、個々の課題を確認することで、児童がセリフを意識して言えるようにする (T1) 					
3 れっしゃのたびをする	・舞台で劇をすることができるようにするために、自分の定位置に準備するよう促す (T1・T2)					
<ul style="list-style-type: none"> ・「○○ありますか?」「はい」 ・「んんん。どうしようかな。あ、そうだ△△にしよう」 ・ダンス「ペンギンさん」 	○ジェスチャーを交えて、自分のセリフをゆっくり言うことができる	○友だちの動きを見て自分のやるこゝとがわかり、セリフを言うことができる	○お話の展開がわかり、友だちの動きを見て、セリフを言うことができる	○お話の展開がわかり、セリフを言うことができる	○マイクの前に立ち、自分のセリフを言うことができる	○日常生活の中で出しているような声量で、セリフを言えることができる
	・セリフカードを提示し、言葉をゆっくり言うことができるようにする	・セリフや動きがわからないときは、必要に応じて、言葉で伝える	・張り切つてセリフを言えている場面では、称賛の言葉を適宜伝える	・出どころがわからないときは、ペープサートで出どころであることを伝える	・セリフを言うことができな場合は、ジェスチャーか、セリフを伝える	・セリフを言う場面で、必要に応じてセリフカードを提示する
	・劇の最初から最後までの流れを通しつつ、必要に応じて止めて確認をしたり、アドバイスしたりすることで、一つ一つの事柄がわかるようにする (T1)					
4 ふりかえりをする	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板で動画を見ながら、個々に取り組んでいる様子について、称賛の言葉がけをする (T1) ・動画に注目するよう言葉がけをする (T2) 					
5 終わりのあいさつをする	・活動の終わりを意識できるようにするために、姿勢を整えて、あいさつするよう促す					

準備物：ペープサート・ペンギン帽子・電子黒板・撮影用タブレット・ビデオカメラ・ハンカチ・サイフ
れっしゃのチケット・ゼッケン